



スペース21 全国交流キャラバン

Printnet 九州工場 見学レポート ①



デジタル印刷部門での説明

印刷機まで送られます。オペレータは、オンデマンド印刷機のトレイに紙を積むことと、スタートボタンを押すだけです。デジタル印刷機であ

まずはオンデマンド印刷工場から。小ロット印刷や名刺、カード等の端物がキヤノンのオンデマンド印刷機4台によって製造されています。オペレータがマシンを動作させるためのセット入力作業は自動化され、すべて本社で設定されたジョブが、オンラインでオンデマンド印刷機まで送ら

いざ工場見学へ

「OGS 副理事長 岡 達也
(あさひ高速印刷株)」

ジャグラー青年部・スペース21の全国交流キャラバンが鹿児島で開催され、プリントネット(株)の工場見学に行つてまいりました。ネット通販専門の大手であり、東証スタンダード上場企業の印刷現場が見学できるというまたとない勉強の機会に、全国から約50人のジャグラの面々が集まりました。前号に続きレポート致します。

ることのメリットを内部のシステム化によって最大限に活かすような生産ラインでした。

その後にオフセット工場に移動。コモリの最新鋭LED乾燥機付き8色機が2台と、LED乾燥機付きリヨビの縦通し封筒印刷機が2台。見学中也8色機は止まることなく1万5千回転で回り続けていました。工場内のコート、マット、上質紙といった主要な紙は国産のもののみならず、輸入紙も。金山から船で運ばれ鹿児島島の港から工場まで陸送され、現工場だけでなく旧工場にも大量に保管されているそうです。紙の購買にはかなりのこだわりで、安さには自信があるようです。後の質疑応答で遊文舎の木原社長が「用紙の購買価格はキロいくらくらいですか?」というどストレートな質問をして皆さん一瞬期待をするも、残念ながら満足な回答は得られませんでした。ほかにも高速で回転するドイツ製中綴じ機、折り機が並び、できあがった製品を女性スタッフが次々と箱詰めする光景は圧巻です。1日の刷版数は6000版、繁忙期には10000版を出力。24時間を2交代で回し、正月5日をのぞく年間360日稼働。オンデマンド印刷機4台とオフセット8色機2台を回して年間30億円売り上げを作り出す受注と生産のしくみには、ビジネスモデルは違うとはいえ驚きです。

本が見学

バスで本社に移動し、同社の頭脳と言える部署を見学させていただきました。注文をつけ、データチェックする部隊が8時から25時まで稼働。ほかにも問合せや

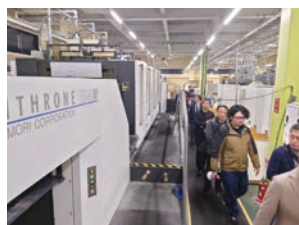
(二面へ続く)

工場の拡張

さらに拡張を目指すべく、現工場の隣に1万坪の土地をすでに取得済みで、そのうちの2千坪を新工場として建設中とのこと。この新工場にオフセット印刷部門はまるごと引っ越しをして、現工場はすべてデジタル印刷工場として計画。今後にも常に最新鋭の機械を設備しながら生産能力を高め、全国の印刷会社の受け皿として受注を拡大していく方向だそうです。



印刷工場での説明。
写真左に輸入紙が
積まれているのが
分かる



コモリ最新鋭機

(二面より)

見積依頼を9時〜20時に電話で受け付けています。1日に数千件のジョブを受け、その工程の手配は4割が自動、6割が手動で処理をしています。九州工場と東京西工場それぞれの設備の違いで自動的に振り分ける以外に、納品先が東日本か西日本かの輸送コスト、納期など人間が判断を要するものは手動で処理されているそうです。

驚いたのが、ウェブサイトでメニュー以外に別途見積にも対応されているところで、1日に百件程度の別途見積を提出されているそうです。この顧客接点でのきめ細やかな電話対応や見積の別途対応が、ほかのネット印刷通販大手との違いを出している部分だと感じました。

小田原会長の 経営プレゼンテーション

小田原洋一会長がご自身の生い立ちや会社の成り立ち、そして将来の構想を直々に語ってくださいました。高校を卒業した小田原氏は製版会社に就職、2年間レタッチや刷版をされ、その後、父・母・職人の零細会社であった小田原印刷に入社。その後営業に力を入れて、17名1.8億円にまで成長させます。しかし地域密着型印刷業に成長の限界を感じ、一時は解散まで考えたそうです。しかし2004年に代表に就任後、インターネット

と楽天ビジネスに出会います。

楽天ビジネスでのマッチングサービスによる全国からの受注のインパクトは大きく、刷つても刷つても追いつかない状況になり、社内には不満が溜まっていたそうです。その後楽天ビジネスとは離れ、ネット印刷市場に参入。受注サイトの構築のために、毎週、大分まで出張してはサイト構築を担った(株)エデンメディアワークスの池邊寛さん(ジャングラ大分)と打合せをする日々だったそうです。

2008年、鹿児島から東京に出荷する際の地理的なハンデを克服するために、山梨県に東京西工場を新設。ネット通販参入からわずか3年での関東圏進出を果たします。当時の売上が5億円で、借入金7億。必死で事業計画を書いている金融機関から資金調達をして設備を増強。しかしその後リーマンショック、東日本大震災があり逆風が続きます。2012年頃から再成長が始まり、そのころ監査法人から上場の話が始まり、2018年には株式上場されます。

余談ですが、上場企業として監査法人に払う資金や配当が毎年1億はくだらないとのこと、上場なんてするものじゃない、と笑っておられたのが印象的です。還暦を迎え今後は会長職に専任して、今後は印刷とはまったく畑違いのサーモンの陸上養殖の事業を構想され、鹿児島県の吹上浜に養殖用の広大な土地を買い求める計画を持っているそうです。

将来はサーモン以外にも近隣に人が集まるような事業をやって町おこしにも貢献したい、とのことで、会長の事業創出意欲には感嘆するばかりです。



小田原会長みずからのプレゼン

まだまだ成長途上という衝撃

あまりに内容が濃すぎてここには書き切れませんでした。最新設備の24時間稼働、工場は拡張という目で見える限り省力化するためのDX投資も果敢にされています。印刷設備を使って利益を生み出すためには、単純にオペレータによる労働だけでなく、前工程・後工程・出荷に至るまで、人間がしなくてよいところはマシンやソフトに働かせる、という思想が徹底されています。いまは売上拡大ではなく利益を考え、年商100億円というのを一つの目標にしながらその範囲内で収益性の改善をされているようですが、一方で3年先、5年先を見据えた土地取得も果敢に行われているところが、まだまだ

事例紹介

その後、特販部の川野正一郎長より、全国の「プリントネット」を利用して良かった印刷会社」の事例発表がありました。自社で刷るよりも短納期であるケースや、フォーム印刷会社やパッケージに特化した会社や、本業から少しばかり違う薄紙のオフセット印刷機をすべて捨ててプリントネットに注文する、といったお手伝いをする事で、全国の印刷会社のサポートをされている事例がいくつも示されました。

プリントネットは完成形ではなく成長途上なのだと感じさせられました。こういった設備を目的の当たりにする、「自社でオフセット、オンデマンド印刷をすることの意味」を自問自答せざるを得ません。中途半端な設備投資や、老朽化した設備を使い倒すくらいなら、いっそ設備と人員の増強はやめて、製造面ではプリントネットの特販営業に頼ってみる、というのも中小印刷会社の生きる道のひとつかもしれない、と感じました。

最後になりましたが、このような強烈なインパクトのある、学びになる素敵な工場見学機会をつくっていただいたジャングラ鹿児島、スペース21の方々に感謝申し上げます。



とっても大事なおカネのはなし

第2弾

その資産、ホントにありますか？

2024年12月号の続きになります。会社経営で最も重要ですが語られることのほとんどないおカネについて、本質的な話を更に掘り下げてみます。

(OGS副理事長 木原庸裕 (株遊文舎))

BSの実態修正と自己資本比率の考え方

バランスシート(以下BS)は左右がバランス(均衡)していないといけません。総資産1億円、純資産5千万円、負債5千万円の会社は、表面上自己資本比率50%の優良企業にみえます。しかしもし仮にこの総資産1億円のうち7千万円が価値のない不良資産としたら、純資産がマイナス2000万円の債務超過ということになります。M&AにおいてDD(デューデリジェンス)というプロセスがあります。これは何をするかというと、主に資産の洗い替え(実態修正)を行います。結果、表面が資産超過でも実態は債務超過ということが往々にして起きます。

経営者は自社のBSの実態を把握し、表面との整合性をとる(不良資産をなくす)取り組みを常に行う必要があります。資金調達に銀行融資を活用している会社が注意しないといけないのは、銀行はかなりの精度で融資先BSの実態修正を独自に行っているということです。社長は自社が自己資本比率が高い優良企業であると思っていても、銀行はそうには全く見ていないということがあります。具体的にどういうことか勘定科目毎に見ていきましょう。

流動資産

●現金

「預金」は残高証明書で確認できますが、現金がいくら会社にあるかは確認できません。決算書で現金が500万以上となっているれば掛売の商売でそんなに現金を会社に置かないので実在性に疑義が生じます。年度の最終日には小口現金は入金し、決算書に載る現金は50万以下にしておきましょう。

●売掛金

相手方が倒産したなど回収不能の債権を貸倒処理せずそのままにしている会社は多いようです。未回収債権がたまる売掛債権が膨らんでいきます。売掛債権回収期間が90日以上になると未回収債権の存在や架空売上の疑義が出てきます。

●棚卸資産

在庫が増えると原価が減って利益が増えます。簡単に利益調整できるため最も実在性が疑われる勘定科目です。在庫の増減はほぼ売上の増減に比例するため、売上が減少したのに在庫が大きく増えている黒字の決算書を見れば、在庫の増減が利益調整の手段であることがわかります。



●仮払金

銀行に渡すと売上総利益率の不自然な向上について説明を求められます。

使途不明金のことです。期中の試算表で使用しますが、たとえ少額でも決算書に載せてはNGです。使った経費を計上せずに仮払金として資産計上すれば、PLの利益調整はいくらでもできてしまいます。仮払金が数千万単位で決算書に残っている会社も少なくないようです。載っていた時点で全額不良資産とみなされます。立替金や前払費用等もあり使わないに越したことはない科目です(こういった実在が怪しげな資産を雑勘定と言います)。

固定資産

●投資有価証券

ここに関連会社(特に100%子会社)の株式が載っている場合、連結財務を見る必要があります。仮に5000万円載っていたとして、対象子会社の実態純資産が仮に1000万円だとしたら、親会社の総資産および純資産はマイナス4000万ということになります。グループ間取引により関連会社を経費負担を押し付ける飛ばしにより利益を過大にみせている会社は多いので注意が必要です。

●貸付金

銀行が最も嫌う勘定科目として有名

です。貸し付ける相手は社長が子会社かよくわからない人か、いずれにしても返済されるのか(資産性があるか)極めて疑わしい科目です。また役員がらみの経費で私的なもの等不明瞭なもの、しらないうちに役員貸付金として処理されることが多いため、対外的にも印象は悪くなります。

●機械装置・建物付属設備

耐用年数に応じて減価償却が必要ですが、計上すると赤字になる場合、未計上とする会社は多いようです。しかし本来の償却限度額は決算書の別表16に記載されているため銀行は償却未計上分を利益および純資産から差し引いて見ます。「減価償却は税法上任意だから未計上で問題ない」という税理士がいるようですが、誤りですので注意しましょう。

負債

相手方があるため、BSの負債項目が誤っていることは稀です。資産は「ないものを書いてある」ことが多いのに対し、負債は「あるものを書いてない」ことが多いです。M&AのDDで必ず争点になるのは未払い残業代と引当未計上の退職金です。手当を誤用して未払い残業代が潜在的に発生している会社はとて多いそうです。貴社は大丈夫ですか？

自己資本比率は重要な指標ですが、実態で見ないと意味がありません。特に銀行は、もう少し深いところで企業分析しています。それは何か？ 次号ではおカネについて更に掘り下げていきたいと思っています。ご期待ください。



4月の活動予定

状況により中止・変更の可能性もあります

1	火	
2	水	大阪大会臨時ミーティング（17：30～遊文舎）
3	木	
4	金	ジャグラ文化典 東京大会 (創立70周年記念) 2025年 6月21日(土)
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	ジャグラ近畿・大阪大会 ※総会・文化典・懇親会は20日(土)※ 2026年 6月19日(金) ～22日(月)
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	

16	水	
17	木	OGS 役員会（18時～JPビル8階会議室）
18	金	近畿地協総会・関連行事（ホテルグランヴィア和歌山）
19	土	SPACE-21総会（東京・大塚商会本社）
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	5月以降の予定 5月16日(金) 平成会総会、大印工総代会 27日(火) OGS 総会・役員会（ホテル日航大阪） 6月21日(土) ジャグラ文化典 東京大会（創立70周年記念）
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	

役員会報告

日 時：2025年3月18日(火) 18：00より

場 所：JPビル8階会議室

出席者：小幡理事長、岡副理事長、黒木副理事長、
佐藤専務理事、大家理事、田中理事、東條理事、
宗次理事、山本理事、岩下監事
オブザーバー：平成会 青木会長

報告事項 その他

【ジャグラ本部・近畿地協】

- ・ジャグラ作品展への出展再依頼、著作権問題についての注意喚起
- ・2月21日(金) 姫路・小倉印刷での勉強会・地協幹事会報告
- ・3月11日(火) 16時より Zoom 地協幹事会報告
- ・4月18日(金) 地協総会(ホテルグランヴィア和歌山)について

【OGS】

- ・来年の新年互例会の日程
1月15日(木) ウエスティンホテルに決定
- ・事務所家賃値上げ検討について

【2026ジャグラ近畿・大阪大会】

- ・キックオフ、予算・見積関連その他について

【青年部】

- ・4月19日(土) SPACE-21総会（東京・大塚商会本社）
- ・5月16日(金) 平成会総会

【その他】

- ・次回のJP展は2026年5月に50回目の記念大会を3日間開催予定

文具女子博大阪2025に参加してきました！

2025年3月5日～9日の5日間、ATCホールで開催された「文具女子博大阪2025」に出展してきました！全国の文具好きが集う、まさに“文具好きが最高に楽しめるイベント”です。今年はなんと110社が参加し、5日間で38,000人が来場！大阪開催では過去最高の人出だとか。毎朝100人以上が開場前から並ぶ熱気っぷりに、“文具沼”の深さを感じました。

メインは文具メーカーさんですが、当社を含め印刷会社も約10社ほどお見掛けしました。その中で大阪府印刷工業組合の「ペーパーサミット」からは3社が出展。和紙や紙の卸もチラホラ見かけました。おしゃれなアイデア文具やコレクター心をくすぐるアイテム、高級感あふれる万年筆やガラスペンなどがずらり。特に、毎日大行列ができていたノートメーカー「デルフォニックス」さんの人気は圧巻！ピーク時には150人待ちなんてザラでした。

年々トレンドが変わり、ユーザー発のアイデア



コンテストなども充実。「こんな商品欲しかった！」という声から商品化されるかもしれない…そんなワクワクが詰まったイベントです。紙や印刷の新しいヒントがあちこちに転がっている、まさに宝探しのようイベントです。ぜひ来年は、皆さんも“文具沼”にハマリに行ってみてはいかがでしょうか？

文具女子博公式サイト <https://bungujoshi.com/>

[OGS 理事 田中幸恵（ホウユウ株）]



大阪府グラフィックサービス協同組合広報誌

OGS News

オージーエスニュース No.498 4月号

[発行日] 2025年4月1日 [発行人] 小幡 利之 [編集人] 木原 庸裕

[発行所] 大阪府グラフィックサービス協同組合

〈(一社) 日本グラフィックサービス工業会大阪府支部〉

E-Mail: info@j-ogs.org

URL: http://www.j-ogs.org/